

自然感

くすのき

yumi



季節感

サザンカの園芸品種で遅咲き、12月～2月頃に開花する。ツバキと違い花卉が一枚一枚と散る。

『カンツバキ』

平成20年1月5日
福岡市西区小田
大塚俊樹



熊海居人独言

2 2

「里の恵み」 皆さんの日々の生活の中で、里地里山に関連のある食べ物や生活習慣に関連する事柄は、どれ位ありますか。クマが過去に体験したこと、現在も行っていることを挙げてみると、次のようなものがあります。

しめ縄 → 稲藁、鏡餅の飾り → ウラジロ(シダ)・ユズリハ・ダイダイ(栽培品種)：ウラジロは清廉潔白であることの象徴。ダイダイとユズリハは家督を代々受け継いで行くことの象徴。

七草 → セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ：春の七草。正月7日に食べる。セリ＝田圃の畦などに生えている。ナズナ＝田や畑の雑草。俗称・ぺんぺんぐさ。ゴギョウ＝ハハコグサの異称。漢字では「御形」と書く。田畑沿いの道路などに普通に見る雑草。ハコベラ＝ハコベ「繁縷」。山野や人里に最も普通に見られる雑草。昔はハコベラと言っていた。ホトケノザ＝畑の雑草として普通に見られる。ただし、七草で言うホトケノザは、本当は「コオニタビラコ」の事である。田圃の雑草で早春の田に多い。花の形や色、葉の形が全く異なる。スズナ＝蕪(カブ)の別称。冬場の畑で普通に栽培される。古くは、救荒食用の野菜でもあった。スズシロ＝蘿蔔(ダイコン・清白菜＝すずしろな)の別称。冬場の畑で普通に栽培される。* カブ・ダイコン共に、原産地は地中海沿岸から西アジアにかけてである。有史以前に中国から朝鮮半島経由で伝わったと考えられている。

神棚・仏壇へのお供え → ヒサカキ(桧)＝お神の柴。里山・雑木林の亜高木～低木層に最も多い。お供えとして最も普通に利用される。

子供の節句(5月5日) → チマキ(粽)＝甘い団子をチマキザサでくるむ。チマキザサは九州には分布しないので、マコモの葉でくるむ。カシワ餅＝カシワの葉でくるんだあんこ団子。カシワは福岡地方では殆ど見かけないので、サルトリイバラの葉を使う。博多弁で「がめのは饅頭」

このように、私たちの年間行事の中で、今でも里地里山と直接結びついたものが数多く見られます。(続く)

◆◆◆2008年 年頭挨拶◆◆◆ N A I S福岡代表 冷川昌彦

明けましておめでとうございます。昨年行われました各地での活動ご苦労様でした。

今年の始まりは元日が雪、8日以降は3月の気温と年の初めから寒暖の差が挙げしく、本格的な地球温暖化の進行を象徴したような天気となっています。昨年末にはTVニュースで博多湾に遊泳する熱帯系の魚たちの姿を知り驚きました。身のまわりで変化する生きものの姿に目を向けてゆきましょう。

一昨年来行われています「鎮守の森」観察会を各地で行いたいと思っています。会員の皆様と共に、会を一段と充実させてゆきましょう。

～事務局からのお知らせ～

この、N A I S福岡会報『自然感くすのき』は、N A I S福岡ホームページにも毎号掲載しています。

(<http://www.kurabird.com/> (自然案内舎(有)クラブードHP)のトップページ下方にある、「福岡県自然観察指導員連絡協議会」からお入り下さい。)

現在、この会報は、全会員に郵送しておりますが、もし、「ホームページの方で見るので、郵送分は必要が無い」という方がいらっしやいましたら、事務局までお知らせ下さい(連絡先は、会報奥付をご覧ください)。順次対応させていただきます。

なお、この場合、郵送費用はホームページ維持費に充てますので、ご了承下さい。

◆◆◆◆◆お知らせ◆◆◆◆◆

「風力発電の地域における影響と波及効果に関する実態調査・研究」報告会

□□■●■●■●■●■●■●■●■●■●□□

『九州の風車どうなってんの?』

□□■●■●■●■●■●■●■●■●■●□□

風力発電の建設により、その地域にはどのような影響や波及効果があるのでしょうか。今回、REPWでは、九州地域内の風力発電施設のヒヤリング調査を実施し、各地域の現状・課題をまとめましたので、その報告と、今後のよりよい風車建設とはどのようなものか考えます。また、風力発電に関する専門家による講演会も行ないます。

■ 日時：2008年2月2日(土) 13:30~16:15 (開場：13:00)

■ 会場：西鉄イン福岡 2階 Bホール

(福岡市中央区天神 1-16-1 TEL. 092-712-5858)

(地図：<http://www.n-inn.jp/hotels/fukuoka/access.php>)

※参加費・事前申し込み不要

■プログラム(予定)

1. 本調査の概要・報告

2. 専門家からのコメント

- ・朝日幸代氏(山口大学経済学部)
- ・三浦大介氏((株)エコシステム)
- ・峰淳二氏((有)フェルナンデ)
- ・鈴木亨氏((特)北海道グリーンファンド)

3. 質疑応答、ディスカッション

4. 記念講演

- ・朝日氏「経済と環境から見た風力発電(仮)」
- ・鈴木氏「市民風車建設の現状と課題(仮)」

5. 今後に向けて

■主催・問合せ

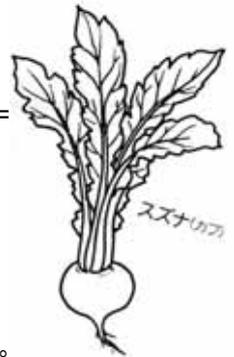
特定非営利活動法人 再生可能エネルギー推進市民フォーラム西日本(REPW)

住所：福岡市中央区天神 5-5-8 福桜ビル 2F-B

TEL/FAX：092-752-7769

E-mail：repw@aria.ocn.ne.jp

URL：<http://www.repw.net/>



☆☆☆「春の七草」考☆☆☆

君がため 春の野に出でて 若菜摘む わが衣手に 雪は降りつつ —光孝天皇[古今集]—

身も心も温まるような清々しい初春の光景が目には浮かんできます。

今年は寒い正月でしたが、5日から少し暖かくなりましたので野山に出て若菜を摘まれた方も多いのでは…。

百人一首でも有名なこの歌の若菜とは「春の七草」のことです。

「春の七草」は、**せりなずな 御形はこべら 仏の座 すずなすずしろ これぞ七草** と古くから歌われていますが、これは14世紀ごろ書かれた「河海抄」(四辻善成著の「源氏物語」の注釈書)という文献に由来しているようです。邪気を払い、一年の無病息災を祈るとされる「七草粥」の風習は、もともと中国から伝わり(1月7日は「人日の節句」、平安時代から宮中で行われていたと言われていました。

この七草は、それぞれの薬効成分をはじめ、ジアスターゼ、カロチン、ビタミン類などが豊富に含まれた体によいもの選ばれています。ちなみに、現代ではヨモギを入れることが一般的な草餅も、江戸時代まではハハコグサが用いられていたそうです。

毎年、私も若菜摘みに近くの油山山麓を、メタボ克服を兼ねて妻と二人で散策しています。今年も早や、ハコベ、ナズナ、ハハコグサ(御形)やホトケノザ(オツとこれは別の…)、サツマイナモリ、オオイヌノフグリなど早春の花たちが咲き誇って待っててくれました。

この風習は、正月のご馳走で弱気味の胃を休め、運動不足を解消し、新鮮な自然の中に浸って心や体を癒すという、先人の優れた知恵ではないでしょうか。「秋の七草」が主に観賞して楽しむものに対し、「春の七草」は薬膳として食べるものになっているのも頷けます。

「君がため」にだけでなく、「自分の健康のため」にも、ぜひ後世に伝えていきたいものですね。

—今年も健康でありますように—

(鶴田義明)

本野鳥の会福岡支部 主催

※参加費：100円（中学生以下無料）

1/20日（日） 2/17（日）
 天拝山探鳥会（筑紫野市）
 時間：9:00～12:00
 集合：天拝山歴史自然公園
 問合せ：092-920-7112（山本勝）

1/26（土） 2/23（土）
 久末ダム探鳥会（福岡町）
 時間：8:00～11:00
 集合：久末ダム多目的広場横駐車場（管理事務所下）
 問合せ：0940-33-7846（高原和幸）

2/3（日）
 今津探鳥会（福岡市西区）
 時間：9:00～12:00
 集合：玄洋高校西側道路
 問合せ：092-891-9005（神園道男）

2/9（土）
 大濠公園探鳥会（福岡市中央区）
 時間：9:00～12:00
 集合：ポート乗り場前
 092-573-1827（森健児）

2/10（日）
 和白海岸探鳥会（福岡市東区）
 時間：9:00～12:00
 集合：JR 和白駅前公園
 問合せ：092-606-0012（山本廣子）

1/19（土） 月例探鳥会
 アイランドシティ 一工事区域内の疑似湿地にいる鳥たちの現状を確認するために
 時間：10:00～13:00頃
 集合：担当者から参加者に連絡
 問合せ：092-592-3423（小野仁）

日本野鳥の会筑後支部 主催※参加費：100円（中学生以下無料）URL: <http://mamewari.blog.ocn.ne.jp/>

1/27（日）
 濃施山公園（みやま町）
 時間：9:00～
 集合：公園内すいせん橋
 問合せ：0944-58-1672（野田）

**三国丘陵の自然を楽しむ会 主催**

1/26（土）里山を歩こう
 時間：9:30～
 集合：埋蔵文化財調査センター駐車場
 問合せ：092-920-3072（松永）
 要：保険料

**福岡植物友の会 主催**

詳細は：092-947-6536（大吉博子）
 1月の観察会はありません。

和白干潟を守る会 主催

1/26（土）
 守る会定例会議
 時間：10:30～12:30
 集合：和白干潟を守る会事務所
 問合せ：092-606-0012（山本弘子）

1/26（土）
 クリーン作戦 と自然観察会
 時間：15:00～17:00
 集合：海の広場 駐車場なし
 長靴・軍手があると便利
 問合せ：092-661-1594（田辺スミ子）

**久留米の自然を守る会 主催**

1/20日（日）第353 回例会
 総会と記念講演会
 演題「身近な環境問題」
 講師 河内俊英氏（久留米大学）
 時間：15:40～17:00
 場所：えーるペア久留米
 参加費：無料
 問合せ：0942-46-8622（古賀）

福岡市油山自然観察の森 主催

※往復ハガキでの申込方法はハガキに「行事名・行事実施日・住所・氏名・年齢・電話番号」を記入の上、自然観察センターまでお送り下さい。

1/27（日）
 冬こそバードウォッチング
 鳥の姿を見つけやすい冬の森で、バードウォッチングを楽しみます。
 時間：10:00～13:00
 対象：一般
 申込み：不要・9:30より受付
 定員：なし
 雨天実施

2/10（日）
 親子木の実でつくる・かんたん！花炭
 木の実やまつぼっくりなど森の素材を使って、部屋に飾れるかわいい炭を作ります。
 時間：10:00～15:00
 対象：小学生と保護者
 申込み：往復はがきで2/2必着
 定員：20人
 雨天実施

問合せ：油山自然観察センター
 参加費：100円
 〒811-1355
 福岡市南区松原夫婦石 855-1
 TEL：092-871-2112
 開館 9:00～16:30（月曜休館）



観察会の様子を、協力していただいた会員の報告を基に、編集部田村がまとめました。前号に引き続き、今号もお送りします。

全部の報告は、学校に提出し、子供達のまとめに活用してもらうようにしました。



【若久小学校5年生と自然観察】

植物班 大塚俊樹

穏やかな小春日和で自然観察にはうってつけの一日であった。たけのこ広場で全体の諸注意の後、班ごとに分かれ、植物班の我々は二つのテーマを持って自然観察をした！！一つ、若久小学校周辺とここ篠栗の環境や植生の違い。二つ、季節の秋を感じる植物を探そう！その為には五感をフルにを使って観察すること…

歩きだしてすぐの足元に枯れたエゴマの草むらがあり実の形からシソ科であり匂いも微かに感じられ、視覚、嗅覚、触覚を使い観察する。セイヨウシャジンの花の形が子供たちの心に焼き付いた様で記録され発表された。それでもできるだけ名前は最後まで言わない様にした。そして名前のついた理由など説明し昔の人の観察力の高いことを思ってもらった。集中力が落ちたように思えたので、葉っぱ一枚で音を出し少しメロディを奏でると俄然、興味津々、集中力が増してきた。この他、シダ類のウラボシを使ったバッタ作りほか、遊びを交えての観察を進める。15cm位の小さな草の小さな葉を一枚とり舌の先でなめてその苦さに強烈なインパクトを持ったことでしょう、センブリです。名前の由来や昔も所により今も胃痛の漢方薬として利用されていることなど説明する。

午後からは、森の木々の形や下草の観察で植物がいかに日光が必要であるか学ぶ。五感をフルに用いた自然観察会を終え二つのテーマに沿って一人一人が感じたことを発表して自然観察会を終えた。

堀 謙治班

若久小学校近くの植物を前に調べていて、今回のセンター裏山の自然との違いを調べた。

五感を使いながら、食べられる植物、葉に使われる植物、毒の有る植物、生活に使われる植物などを見つけた。紫色が美しいツルリンドウの花が日陰の時は閉じているが日向になると花が開く事や、白い花のセンブリが胃の薬になることを学びました。そして、ちょっとだけフユイチゴの味も味わいました。私の説明に「えー——！」 「うわー！」とかの歓声が上がります。こんなに反応の良い観察会はこちらものってきます。

最後は別れがつかなくなってきました。11人の仲間とまたいつか会いたいものですね。

山本弘子班

五感を使って林の中を歩こう。

何枚もの葉を虫に食べられている木を見ました、植物は優しくて弱だけなのか？

自分を守る3つの工夫

- A 物理的防御／トゲやザラザラした葉 竹のように消化の悪い茎
- B 科学的防御／渋い・苦い等で沢山食べられるのを防ぐ・かぶれる・しびれる
- C 生物的防御

蜜線をもっている 蟻をガードマンに雇って虫をたべてもらう。

ダニの好きな匂いを出して呼び寄せて葉を食べるハダニを退治してもらう。

などの説明をして木や草に触りました。

イヌザンショ（鋭いトゲ）は、小さな葉が15枚以上これで1枚の葉です。がめの葉（サンキライ）は、つる性の植物で太くなる力を伸びるのに使って太陽をもとめます。枝ごとからみついたり、スプリングのようなひげでつかまったり、石垣や電柱などには吸盤のようについています。クズは料理に使ったり漢方薬になります。シロダモの黄色い花はいい匂いがしました。クスノキ科の葉は線香などをつくります。ハゼの木はかぶれるのですが、塗料になります。種は生活に役立つ色々な品物が作れます。ヒガンバナやドクゼリやキンポウゲの花を摘んで帰ると叱られるのはやはり毒があったりかぶれたりするからです。センブリの花は漢方薬になります、千回お湯に入れても苦いのでこんな名前がついたそうです。

スズメバチのわながサクラの木にぶら下げてありました。蜜の匂いがしたので飛んできたのです。私達には解らないかすかな匂いでも解る嗅覚です。スズメバチはどうしてあんな色なのでしょう、道路工事の囲いに似ています。黄色と黒はとても目立つ色で危ない時や注意の時使います。小鳥に食べられないように毒をもっているぞと脅かしているのでしょうか。虫の色、花の色、実の色、鳥の色、皆理由があるのですね。

花の不思議、種の大冒険、図書館で調べてみると面白いですよ。



～センブリの花～

昆虫班

若久小学校では日頃から学校のまわりの自然を観察、調査して見たものの特徴などを記録していて、今回はその「外部との比較編」といった位置付けでもありとお話を伺い、当日のテーマは「どんな昆虫がどんな場所で何をしていたか見てみよう」。

昆虫班共通プログラム概要

- ① 観察の要領ポイント講習(日が充分に当たるまでの時間稼ぎ)(9:00-)
- ② たけのこ広場の日の当たる草地斜面でチョウなどの観察(-10:30)
- ③ 林道沿いに山頂までの往復を観察(-12:10)
- ④ たけのこ広場で昼食。昼食後自由観察(-13:00)
- ⑤ あじさい広場を中心に各自の自由観察とスケッチ(-15:00)



松下彩二班

体温上げにどれだけの昆虫が出てきてくれるか心配しながら観察ポイントを講習。

- ◎日光浴をしていたチョウ(翅を広げてじっとしていた)
ツマグロヒョウモン♀、キテテハ、ヤマトシジミ(翅の表が青い)
- ◎飛び回って時々花に止まっていたチョウ
スジグロシロチョウ、キチョウ、モンキチョウ、ヤマトシジミ
- ◎草地にいたバッタの仲間
ツチイナゴ(色合いと涙目観察)、オオカマキリ(大きなおなか)、オンブバッタ
- ◎石の下に隠れていた虫
ダンゴムシ(♀と♂発見)、アリ
- ◎木片の裏の穴に潜んでいた甲虫
オサムシの仲間(ちょっと臭い)
- ◎死体発見
ゴミムシダマシ(キマワリ)の仲間(よく見ると中は空洞、誰に喰われた?)
- ◎ジョロウグモ(今までクモの種類を考えたことがなかったらしく特徴をしっかりと観察、初めてクモに触った子も、ひたすら獲物を待つ)
- ◎カラムシの葉を巻いて潜んでいた幼虫(フクラスズメ?、葉の中は暖かい?)
親がこの草に産卵→幼虫がこの草を食べるから
- ◎クツワムシの死体を出入りするたくさんのアリ、気持ち悪いけど自然は厳しい。(感想)いろいろなポイントを教えるとすぐに実践してくれて「さすがに子供の目は優れている」と感心。最後のまとめでは定番の命のつながりを図解しました。



～ツマグロヒョウモン～



～クツワムシ～

山本寿美子班

早朝は冷えているので昆虫たちは体が温まるまでじっとしているかも知れないと、最初は網や虫かごは持たずに、どんな所で、何が、何をしているかそ〜っと観察。その後は捕まえて拡大容器などに入れてじっくり観察をすることになりました。子供たちは色々な所を積極的に探し、捕まえていました。落ち葉の下や、樹や草などの葉が破れていたり穴があいているのがあれば注意して見るよう促しました。
最後のおまけでフユイチゴを食べる。

山本勝班

観察に先立って、どんなところを探したらよいかを伝える。植え込みの葉の上や裏。石の裏。積んである樹の間。草の根元など。

- ① たけのこ広場の草付法面の前で30秒ほど目をつぶっていろいろな声を聞いてみる。虫の声(コオロギやキリギリスの仲間)、鳥の声(エナガやホオジロなど)
- ② キテテハを捕獲し観察。翅の表と裏の色や模様の違いを見る。
- ③ マユタテアカネを捕獲し観察。顔の前面に眉のような黒点が名前の由来であることを確認する。トンボ類は胸の横の黒い筋模様が種の判別によく利用されること。
- ④ サンショウの幼木の葉の上にいるアゲハの初期幼虫(2齢~3齢)を観察。鳥の糞に擬態していること。昆虫の変態のこと、特に幼虫の時には食草といって食べる植物が決まっているものが多いこと、したがってその植物を探すと見つけやすいことなどお話しする。
- ⑤ 子供がイシノミを捕獲。昆虫の中でも原始的なものであることを伝える。
○土の中にも、ハサミムシやトビムシなどの昆虫やダンゴムシカニムシなど多くの生きものが、食べる食べられる関係にあることをお話しする。
○特に鳥と昆虫の関係についてお話しした。

放鳥ヅル生きていた



鹿兒島県出水市の干拓地で見つかった赤と黄の足輪を付けた放鳥ヅル

(出水市提供)

鹿兒島県から山口県周南 田の特別天然記念物ナベツルの八代盆地に移送されたル三羽のうち一羽が昨年三月に放鳥された末、鹿兒島県出水平野で発見された。

鹿兒島から山口移送のナベツル

見されていたことが四日、分かった。ナベツルを移送先で放鳥し、渡ったシベリアから翌冬に八代盆地に戻って来てもらおうという例のない試みで、三羽のうち発信機が取り付けられた二羽は昨年五月、日本海上で消息が途絶えたため、残り一羽も生存が絶望視されていた。出水平野で見つかったのは、発信機がなかった雌。北九州市に住む男性が十二月二十七日、目印の足輪を付けたナベツルが出水市内の水田にいるのを発見。報

古里、出水で発見

生存絶望視… 告を受けた周南市教育委員会の担当者も三日後に確認した。放鳥され、シベリアに到着した後、ほかのナベツルの群れに加わって出水平野に戻ったとみられる。周南市教委の徳水豊鶴担当課長補佐は「八代に帰って来なかったのは残念だが、取りあえず生きていて喜んでいる」と胸をなで下ろした。市教委などは昨年十二月、第二弾として移送ナベツル二羽を放鳥しており、徳水課長補佐は「今回の経験を生かし、今度こそ八代に戻ってきてもらえるようにしたい」と意気まんまいる。

昨年暮れに、長崎県諫早の近く森山干拓でマナヅルの群れ28羽と出会いました。また、今年になって野鳥の会のお仲間から、佐賀県伊万里の近くでナベツルを見たが、可能性はありますか？というご質問でした。伊万里の長浜干拓では、ツルのデコイを置いたりして、越冬地として整備を進められていましたし、私も昨年5月に伊万里の内陸部でナベツルを観ていましたので、「十分可能性はあります。ただ場所によってはデコイの可能性もありますが…」とお答えしました。

皆さんもご存知のとおり、鹿兒島県出水市には毎冬1万数千羽のナベツル・マナヅルなどの群れが越冬しており、特にマナヅルは地球上の半分、ナベツルは地球上の9割がこの狭い場所に多くが密集しているため、ひとたび鳥インフルエンザなどの伝染病が蔓延すると、壊滅的な打撃があると心配されています。

かつて、韓国でトモエガモが鳥コレラで1万1千羽を越える大量死をした事件(2000.10)や、世界で900羽しか生息していないクロツラヘラサギのうち71羽(8%)が台湾で大量死した事件(2002.12~2003.1)が、現実起こっています。

このことを受けて、日本野鳥の会、環境省、各自治体などが協力し合って、出水の他の越冬地を整備して、ツルの越冬地の拡散を図っているわけです。

そこで、右の新聞記事ですが、出水で越冬中のナベツルを、こちら昔からツルの越冬地として有名な山口県周南市の八代(やしる)に捕獲後移送し放鳥していた個体が、八代ではなく最初の越冬地の出水に戻っていたという記事です。

ツルにはツルの事情があるのでしょうかね。

地道な活動を続けておられる方々にエールを送りたいと思います。(本のむし)

☆☆☆ちょっと立ち話☆☆☆

三国丘陵の自然を楽しむ会 松永 紀代子

溜池へ続く小径はいつものように誰もいない。ミヤマホオジロが時折チツと小さな声をたて、茂みに飛び移る。時折ざわざわと林が音をたてる。側溝から飛び出したキセキレイがチチンチンと稲株だけになった田の上を飛び去った。2007年もあと数日……。溜池は静かそのものだった。ハシブトガラスが横の森から舞い上がり、そして飛び去った。

帰り道、水を張った田のそばに人影がみえた。この田は三国の里山で続く伝統的カモ猟、片無双網猟の猟場になっている。猟場のご主人が、バケツに入れたカモの餌となる糶をまいているところだった。声が届くかどうかかわからないが、「こんにちは！」と叫んだ。ご主人は顔をあげ、うなずいた。写真撮っていいですか？とジェスチャーでカメラを指さした。ご主人は笑いながら止めとくれ、と手をゆらした。網が仕掛けてあると思われる一辺にそって糶をまき終えるとご主人がもどってきた。

「カモはおったね？」とご主人。いえ、ぜんぜんです。「おらんもんね。だいたいね、亥年は豊漁といわれとつですがね。まあ、言い伝えのようなもんだけど、今度の冬は全然だめだね。」どのくらいかかったですか？「いや、少ないですよ。」言葉は濁された。私が三国丘陵の自然を楽しむ会なるものを行っていることなどもご承知のご主人だから、それは無理からぬところ。「今年はぬくかったですもんね。温暖化じゃって、やっぱりおかしかですね。生態系が変わりよるとかも……。カモも来んようになる。」

以前、「無双網猟は、頭の良いカモとの知恵比べのようなもの」と話されていたご主人、なんだか寂しそうに見えた。

2008年、本年も三国丘陵の自然を楽しむ会をどうぞ宜しくお願いします。シリーズ「ちょっと立ち話」は三国丘陵の自然を楽しむ会ブログ <http://mikunikyuryo.blog107.fc2.com/>の会報でお読み頂けます



運転中に聞いたラジオのニュース(1月5日)で、「環境省の生物多様性センターは、地球温暖化のいろいろな兆候、例えば見かけない昆虫などの生きものや植物が住まいの近所で見かけるようになったなどのデータを、今年の春から全国で数十万人を目標に 参加者を募集し、夏ごろから調査を開始したいとしています。」とっておりました。

ツマグロヒョウモン、ウラナミシジミ、ヨコヅナサシガメなどの昆虫が北上しているという話はよく聞いていましたが、右の新聞記事もそのような内容です。地球の温暖化が背景にあるかも？としながら、世の中の常識として温暖化と結び付けて考える方は多いように思います。温度の上昇だけで生物は北上するのではなく、食べ物となる他の生物や植物の状況など複雑な要因あってのことだと理解はしますが、何せ複雑すぎて???が多いのです。

一方で、正月のテレビ番組を見ていると、武田邦彦氏が「日本人は地球温暖化について、正確な情報を得ていない」と話していました。ツバルの海面上昇は温暖化の影響ではない・ダイオキシンは無毒と考えてよい・ゴアのと副大統領は温暖化を政治利用している・リサイクルは資源の無駄遣い・・・などなど。人間、価値観がひっくり返ると冷静ではいられなくなるので、これは一から勉強のし直しを迫られたのでしょうか。氏は「環境問題はなぜウソがまかり通るのか」(洋泉社)を出しているので、一度は読んでみようという気になっています。

(本のむし)

正月休みに港で野鳥を観察していたら、堤防上でさかんに羽づくろいをしているウミネコ(カモメの仲間)を見つけました。よくみると普通は真っ白なはずのお腹が、なぜか真っ黒になっていました(写真左)。そうです、どこかでなんらかの油が付着してしまったようです。幸い飛翔することはできていましたが、餌がきちんと採れているのか心配でした。先月には別の場所で、ルアーを足に引っ掛けたまま水面に顔を突っ込んで死んでいたユリカモメを発見したばかりでした。また、ニュースでご存知の方も多いと思いますが、沖縄で絶滅危惧種クロツラヘラサギ(トキの仲間)のくちばしに釣り糸が絡まった個体が発見されました。1/5 現在でも未だに救出できず、衰弱している様子だということです。今月中旬に捕獲の専門家が派遣されるそうですが、間に合うのどうか…心配です。

これらの原因は(たとえ故意ではないにしろ)人間にあることは明らかです。しかも、これらは氷山の一角でしょう。このままでは、悲しい出会いは今後もっと増えそうな気がします。なんとかしたいですね。まずは、小さなことでも出来ることをまめまめしく続けていこうと思う年頭でした。山翡翠



山口県宇部市で見つかったハラボソ トンボ=06年8月(原隆さん提供)



沖縄 ⇒ 山口

ハラボソトンボ生息地北上

七十四年ぶりに最高気温があるのだろう。トンボがある。記録が更新された昨年八月、沖縄県の南西諸島に多て居るのかもしれない」と話している。宇部市の干拓地で一匹を確

ソントンボが四匹、山口県宇部市で見つかった。ハラボソトンボは体長五センチほどで、腹部が細いのを確認した。〇七年は同じ場所で四

発見した宇部市の日本蜻蛉学会会員、原隆さんが特徴。原さんによると、南西諸島のほかに九州でケースはほかにあり、東も数カ所確認されている。南アジアなどに生息してい

温暖化が原因か

たトンボが日本に定着して在来種が駆逐された例もあるという。国際トンボ学会の井上清会長(モモ)は「二年続けて見つかるのは、越冬して定着したのかもしれない。生態系が変化する可能性もあり、珍しいトンボを見られるようになったと喜んでばかりもいられない」と話している。

～～～会員の動向～～～

会員の國廣勝さんが、北九州市の曾根干潟で近くの小学生と長年観察を続けてきたカブトガニの生態について、その成果を、まとめられました。その内容が、北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会が発行しているわたしたちの自然史第100号（2007年11月20日発行）に掲載されました。テーマは、曾根干潟でのカブトガニの産卵を中心とした生活の様子（写真紹介とミニ解説）です。

國廣さんが10年の長きに渡って小学生といっしょに、丁寧に観察し、その様子を撮影しながらまとめられた内容です。

ちょっと出かけたくらいでは見ることの出来ない写真が掲載されています。会員の皆さん、是非手にとって読むことをお勧めします。《報告 事務局 田村》



これは何だか 解かりますか?

《前回の解答》

シソ科オドリコソウ属のホトケノザの花でした。

よく観てみると、葉を仏様の蓮座、花を仏様に見立てたとか。ただし、春の七草のホトケノザはキク科のコオニタビラコです。

◆◆◆◆◆事務局からのお知らせ ◆◆◆◆◆

インターネット掲示板に会員の皆様の書き込みをお願いします。
ナイス福岡のアドレスはこのページの一番下に表示しています。

会費振込について

それぞれの会員の皆様の会員期限をタックシール部分に明記してあります。各自ご確認の上、郵便局にて下記の郵便振替口座に振り込みをお願いいたします。なお、会計年度は6月から翌年5月末までです。

郵便振替口座: 福岡県自然観察指導員連絡協議会 01760-9-15783 年会費: 2000 円

皆に知らせたいことはありませんか?

皆さんが行っている観察会やイベントの案内、自然保護に関する情報やご意見、お薦めの本の紹介などをお寄せ下さい。原稿は定例会の一週間前までに事務局にお送り頂くとその月の会報に載せることができます。皆さん情報をお待ちしています。

定例会に参加してみませんか?

本会の運営に関する打ち合わせや情報交換、会報の発送作業を原則として毎月第2金曜の 18:00～20:00 ごろまで自然案内舎(南)クラブにて行っています。

会員の方はどなたでも参加できるのでお気軽にお立ち寄り下さい。皆さんのおこしを心よりお待ちしております!

次回の定例会は、2008年2月8日(金)午後6時より事務局で行います。2月号の原稿は、1/31(木)までに届くようにお願いします。なお、原稿を掲載するに当たっては編集担当にお任せ願います。

他団体の会報の紹介

日本野鳥の会筑後支部 まめわり第81号 2008年1月1日

鳥根県自然観察指導員連絡協議会 おとしぶみ69 2007.12.

久留米の自然を守る会 久留米の自然 第99号 平成20年1月1日

福岡県NPO・ボランティアセンター コンテ9 Winter 2008



編集後記

2007年12/14定例発送会は、西村裕美・鶴田義明・大塚俊樹・福田治・河野博明・田中健二・冷川昌彦・田村耕作が参加。藤川渡・山本勝から欠席の連絡。皆さん年末年始どう過ごされましたか。私はお正月に樋井川で野鳥を見ながら散策。そこど枯れたオオバタクサの中に、青々としたものが何本もありました。どういことなのでしょう。田字草



お問合せ: 福岡県自然観察指導員連絡協議会
(NAIS Fukuoka: The Nature Interpreter Society of Fukuoka)
代表: 冷川昌彦 / 事務局長: 小野 仁 /
編集: 田村耕作・山本勝・松永紀代子・吉田素子 / 会計: 宮原俊彦
〒810-0061 福岡市中央区西公園 8-17
自然案内舎(南)クラブ内 TEL & FAX: 092-732-7042
URL: <http://www.kurabird.com/>
掲示板 URL: <http://bbs9.fc2.com/php/e.php/~naisfukuoka/>